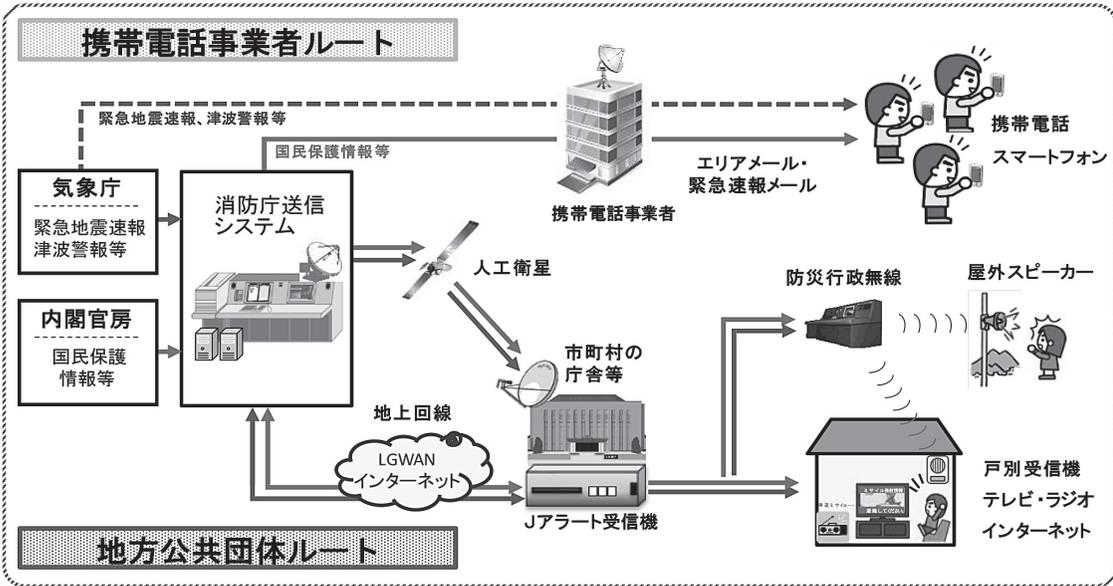


# 弾道ミサイル攻撃と警報と避難



Jアラートの仕組み（令和3年版消防白書より）

最近、北朝鮮の弾道ミサイル発射回数が激増している。10月には、北朝鮮のミサイルが日本列島上空を通過してJアラート（全国瞬時警報システム）が発令され、一時大騒ぎになった。11月に入ってもJアラートの誤報騒ぎを引き起こしたICBMの発射実験などが相次いでいる。折しも、「クリミア大橋爆破に対する報復措置」と称して、ロシアによるウクライナへの大量のミサイル無差別攻撃なども行われている。この機会に、日本がミサイル攻撃を受けた場合の、警報発令や避難の仕組みについて見ておこう。

**北朝鮮のミサイル発射**

北朝鮮のミサイル発射回数は最近急増しており、10月には9回、11月には3日までに4回にもなっている。今年の合計は既に34回に及んでおり、昨年、一昨年がともに4回、2019年でも13回だったことを考えると、昨今の多発ぶりは際立っている。

10月4日に発射された

ミサイルは、朝7時22分頃青森県の上空を通過して、太平洋上の日本の排他的経済水域外に落下した。このためJアラートが発令され、通勤途上の人たちのスマホに緊急速報メールの着信音が鳴り響いた。北海道新幹線が一時運転を見合わせるなど、実際の交通への影響もあつたようだ。

筆者のスマホでも着信音が何度も鳴りつづるさほどだった。どこかで大地震かとスマホを開くと、伊豆諸島の大島などを対象に「ミサイル発射。ミサイル発射。北朝鮮からミサイルが発射されたものとみられます。建物の中、又は地下に避難してください。」と表示されたので仰天した。バスの中で、「そんなことを言われてもなあ・・・」と考えているうちに誤報とわかってホッとしたが、対象地域として名指しされた地域にお住まいの方は、もっとも焦ったことだろう。

**Jアラート**

Jアラートは、ミサイル攻撃に関する情報だけ

でなく、緊急地震速報津波警報、気象警報などの緊急情報を、人工衛星回線や地上回線を通じて全国の都道府県、市町村等に送信し、市町村防災行政無線（同報系）等を自動起動することにより、人手を介さず瞬時に住民等に伝達するシステムである。

**弾道ミサイル攻撃に関する情報など国民保護に関する情報は内閣官房から、緊急地震速報、津波警報、気象警報などの防災気象情報は気象庁から発出され、消防庁の送信設備を経由して全国の都道府県、市町村等に送信される仕組みとなっている。**

2004年に国民保護法が制定されると、その具体的な整備の一環として消防庁が都道府県や市町村と連携して整備したもので、2007年に運用が開始された。当初は4市町村だけだったが、現在では全ての市町村で整備が済んでいる。

また、現在は、この地方公共団体経路による情報伝達とは別に、国から携帯電話会社に配信した

Jアラート情報は、個々の携帯電話利用者にもメール（エリアメール・緊急速報メール）で伝達するルートも整備されている（図参照）

北朝鮮のミサイルは、発射後10分以内に日本に到達すると言われているので、発射直後に情報を把握しても、着弾までの間に住民に警報を届けるようにするには、数分の余裕しかない。Jアラートの計画が持ち上がった当初は、「そんなことが本当にできるのか」と半信半疑だった。ただ、「津波警報や緊急地震速報の即時配信のため」というだけでは、このような大がかりなシステムの整備は難しい。ミサイル発射警報を国民に伝えるという、当時盛り上がりつつあったムードに乗れば整備が進むだろう、結果的に津波警報が素早く配信できれば良いとするか、などと密かに考えていたくらいだ。

10月4日の事案では、警報が発令された時には既に上空を通過中だったようだが、一応着弾前には警報が発令されている。

Jアラートは、ミサイルが日本の領土・領海に落下する可能性がある場合か、領土・領海を通過する可能性がある場合に発令されるということなので、速報性という点では、もう一息というレベルには達していると言えそうだが、ただ、ミサイルが青森県上空を通過しているのに伊豆諸島にも警報が出るようでは、精度面でまだまだ改善の必要があるだろう。

11月3日の事案では、日本上空を通過するとして宮城・山形・新潟の3県にJアラートが発令されたが、途中で消失してしまし、結果的に誤報となった。

このJアラートにより、住民に避難が呼びかけられたり、新幹線が一部運転を見合わせたりしたため批判の声が強く、政府もシステムの改修を検討するなど報道されている。

Jアラートは、ミサイル発射直後の弾道などを計測し、飛行ルートや着弾地点を計算して、着弾までの数分間に対応する

システムなので、迎撃ミサイルほどではないにしても、技術的には極めて難しい。技術上、システム上の改善も必要だが、それに加えて、Jアラートの限界を知った上で国民がどう行動するか、ということかも知れない。

**どこに逃げるのか**

Jアラートを受信した場合、どうしたら良いのだろうか。せいぜい2〜3分の余裕しかないのに引火するおそれがあるため、車から離れ、後は前記と同様の行動をとる。高速道路を通行中など、車から出ると危険な場合

には、車を安全な場所に止め、車内で姿勢を低くして、指示があるまで待機、などとなっている。ウクライナの状況を見ると、このような対応を取ってもミサイルに直撃されればひとたまりもなさそうだが、少し外れたところに着弾した場合

は、ダメージがだいぶ違うかも知れない。そんな場合にも生存確率を少しでも上げるためには、知って置いて損はないと言えるだろう。

近く建物又は地下がない場合は、ミサイル着弾時の爆風や破片などによる被害を避けるため、物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守る。自動車の内内にいる場合は、燃料のガソリンなどに引火するおそれがあるため、車から離れ、後は前記と同様の行動をとる。

高速道路を通行中など、車から出ると危険な場合には、車を安全な場所に止め、車内で姿勢を低くして、指示があるまで待機、などとなっている。

ウクライナの状況を見ると、このような対応を取ってもミサイルに直撃されればひとたまりもなさそうだが、少し外れたところに着弾した場合

は、ダメージがだいぶ違うかも知れない。そんな場合にも生存確率を少しでも上げるためには、知って置いて損はないと言えるだろう。

近く建物又は地下がない場合は、ミサイル着弾時の爆風や破片などによる被害を避けるため、物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守る。自動車の内内にいる場合は、燃料のガソリンなどに引火するおそれがあるため、車から離れ、後は前記と同様の行動をとる。